

# コリント 第一

11

## 「聖書が示す性差 ジェンダーとは？」

コリント人への手紙 I 11章前半 女性のかぶり物をめぐって

# アウトライン

## 0. イントロダクション

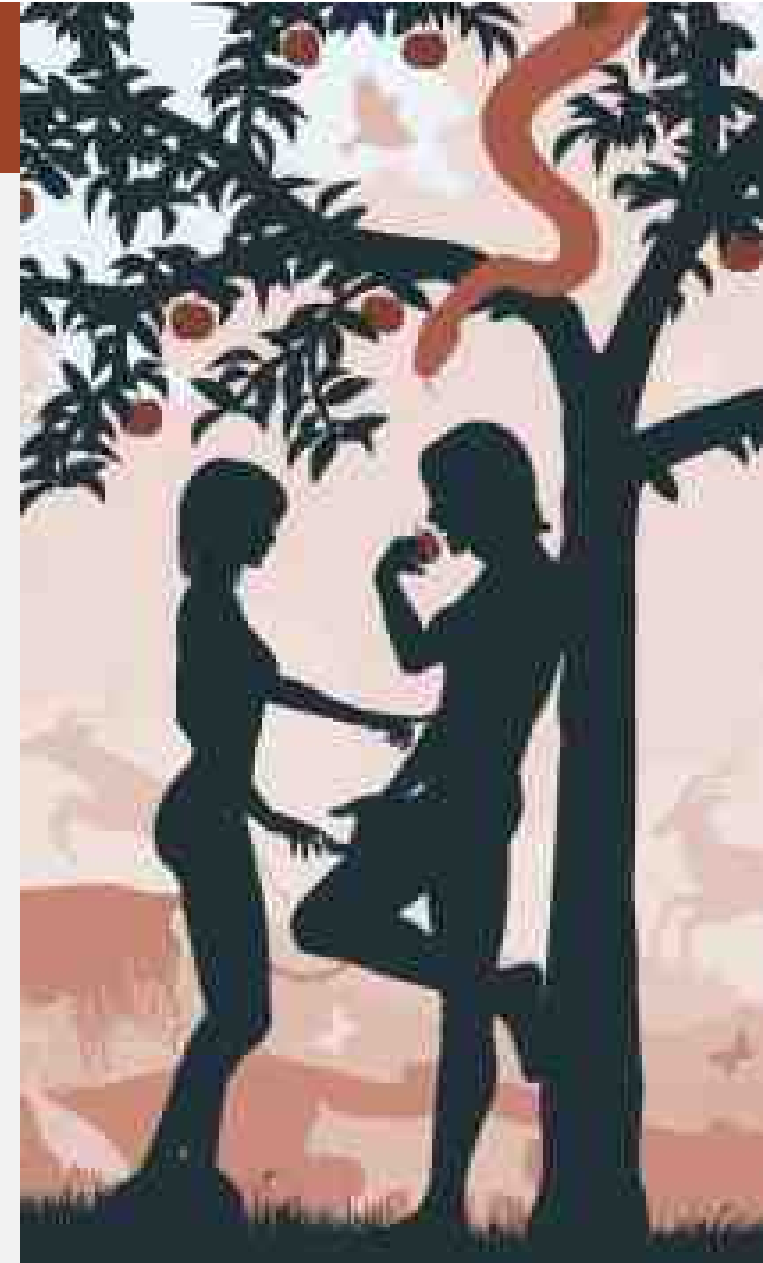
I. かぶりものについて 11章1~13節

II. 聖書が教える男女の性差

III. まとめと適用

男女の健全な関係性を育むために

聖書から性差・ジェンダーを考える



## コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。  
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



海を挟んで約250km  
陸路を廻れば約1,000km

## 【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都  
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」  
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- 神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。

信仰者の自由をはき違えた放縦が問題に



コリントの遺跡  
アクロポリスの丘

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縦の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ		16:13~24



秩序  
 秩序  
 秩序  
 性  
 性  
 偶像  
 秩序  
 偶像  
 性  
 秩序  
 秩序  
 秩序

## パウロが心砕いていたこと

■ 偶像に献げた肉を巡る議論で、パウロの頭にあったのは？

- ・ 偶像礼拝を忌避し、律法が染みついたユダヤ人信者
  - ・ 偶像礼拝の文化で育ち、自由を強調する異邦人信者
- 異邦人が増える教会でヘブル的背景の希薄化が進行

共存  
と  
一致

■ 確認される、エルサレム会議(使15章)のユダヤ人への配慮事項

「ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫らな行いと、絞め殺したものと、血とを避けるように、彼らに書き送るべきです。使15:19」

→ 祭儀的食事、神殿娼婦・男娼、性的姦淫、淫行…

いずれも、偶像礼拝と密接に関連

薄れるユダヤの歴史的教訓



**I. かぶりものについて Iコリント11章1～16節**

## 【倣うべきこと】 1コリント11:1

私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。

### ■パウロのキリスト者としての行動基準(10章)

- ① 食事も他も、すべて**神の栄光を現すため**。
- ② ユダヤ人、異邦人、教会に**つまづきを与えない**。
- ③ 自分の利益でなく、**人々の救いのため**。

➔これらの行動基準を模範にするよう求めた。





## 【褒めるパウロ】 1コリント11:2

さて、私はあなたがたをほめたいと思います。  
あなたがたは、すべての点で私を覚え、私があ  
なたがたに伝えたとおりに、**伝えられた教え**を  
堅く守っているからです。

- 重大な問題を起こした者もいたし、  
現実への適用に関しての課題もあった。
- パウロが教えた**初歩の教え**については、  
それでも多くの者は堅く守っていたのだろう。



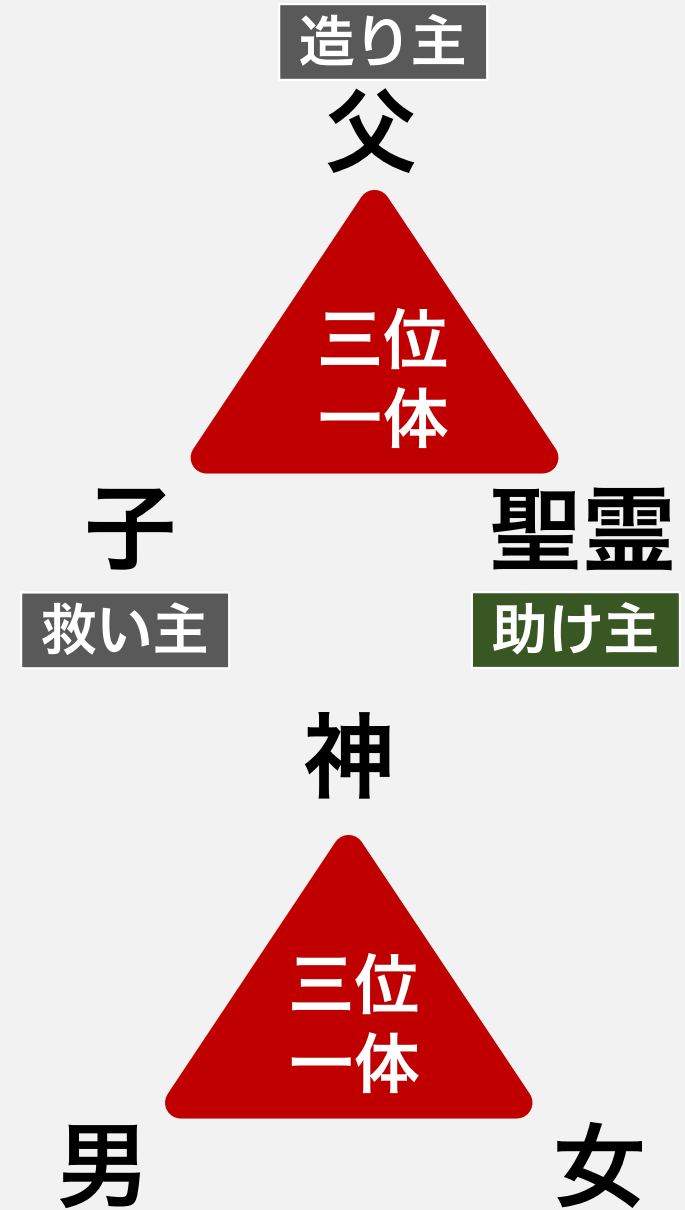
## 【神の秩序】 | コリント11:3

しかし、あなたがたに次のことを知ってほしいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

男→キリスト  
女→男  
キリスト→父なる神

個別ばらばら  
ヒエラルヒーに  
はなっていない

- 男も女も“仕えるべき”存在。  
→キリストすら“仕える者”だった。



## 【かぶり物】 | コリント11:4~6

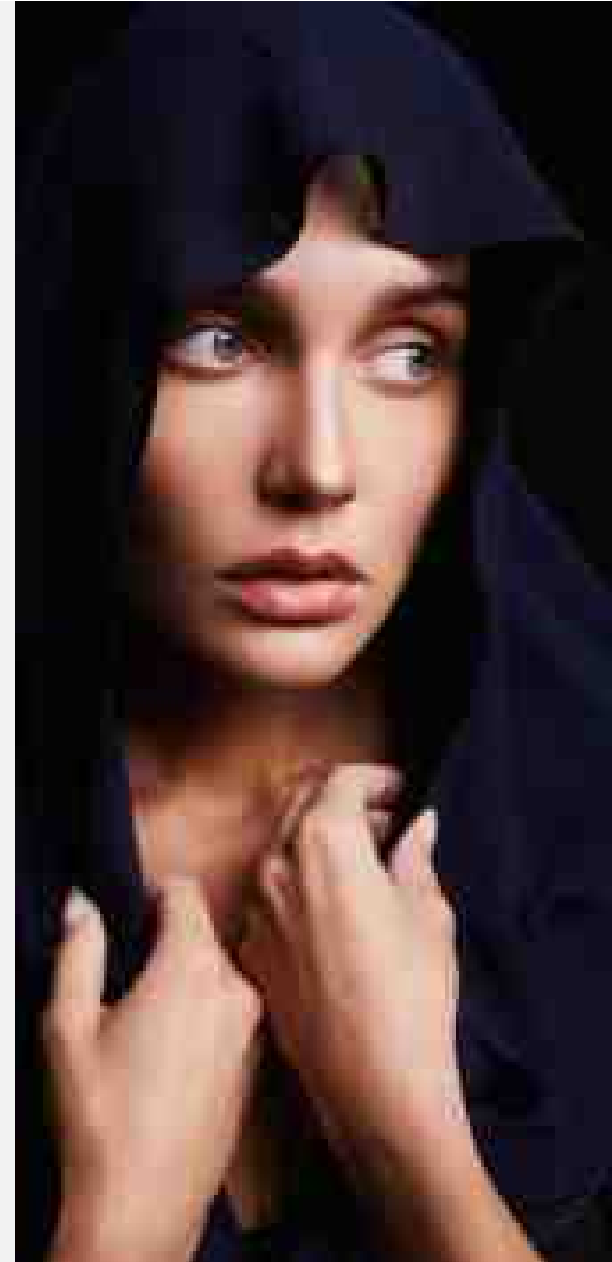
男はだれでも祈りや預言をするとき、頭をおおっていたら、自分の頭を辱めることになります。

しかし、女はだれでも祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭を辱めることになります。それは頭を剃っているのと全く同じことなのです。

\*小から大(大から小)の議論 典型的ユダヤ論法。

➡かぶり物をしない = 頭を剃るのと同じ。

「頭を剃るのが嫌なら、かぶり物をすべき」



## 【かぶり物】 | コリント11:6

女は、かぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまいなさい。髪を切り、頭を剃ることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。

■ 当時のユダヤ女性は、かぶり物が当然だった。

→ かぶり物をしないのは、娼婦ぐらい

■ ギリシャ女性は、かぶり物の習慣はなかった。

→ 性的に墮落したコリントの状況

■ 異邦人信者の女性はどうかあるべきか？

ユダヤ人信者と異邦人信者の一致の問題が!!



## 【想像の秩序】 Ⅰコリント11:7～8

男は神のかたち\*であり、神の栄光の現れ\*  
なので、頭にかぶり物を着けるべきではありません。一方、女は男の栄光の現れです。

男が女から出たのではなく、女が男から出た\*からです。

アダム

\*“神のかたちとして人を創造し(創1:27)”

\*“非常に良かった” → 最高の被造物が人

\*アダムの脇腹からエバが造られた。



## 【権威のしるし】 | コリント11:9~10

また、男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたからです。

それゆえ、女は御使いたちのため、頭に権威のしるしをかぶるべき\*です。

\*御使いは、神に“仕える”者

神の国では、御使いは信者に仕える。

→女は“仕える”という点で、

御使いの模範であるべき。

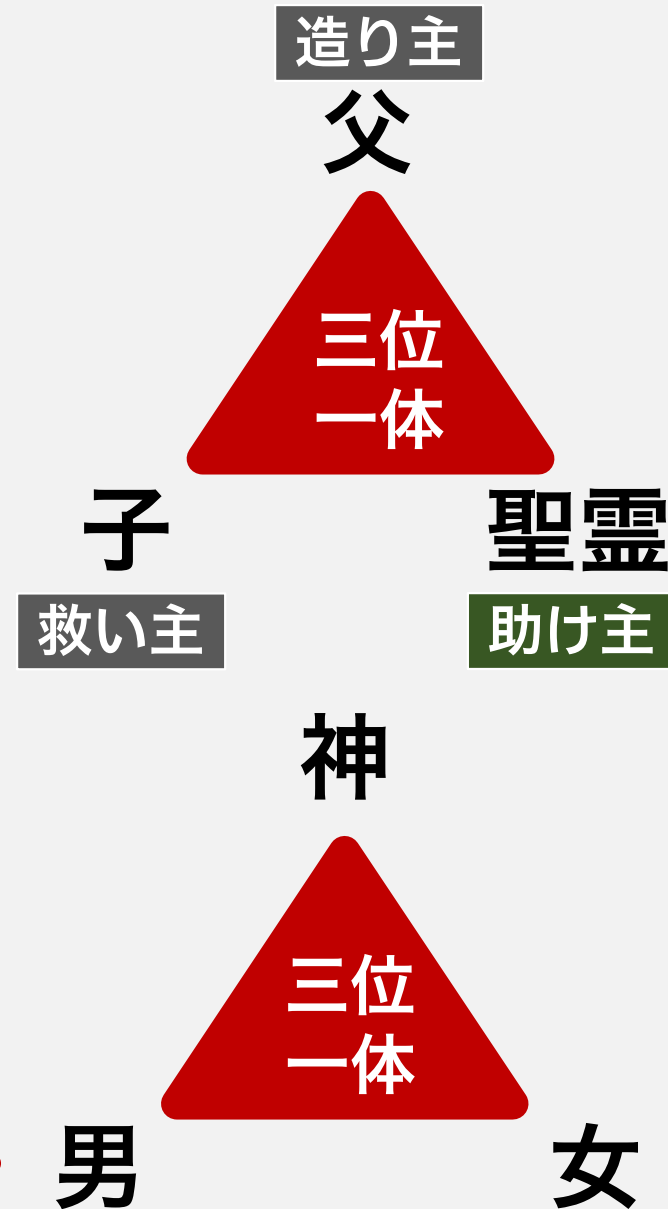


## 【男女に優劣はない】 | コリント11:11~12

とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、**すべては神から出ています。**

■ **聖霊は助け主** (ヨハ14:26)。しかし、創造主、救い主なる子より、劣る存在ではない。

■ 男に仕える者、助け手とされた女は、男に劣る者ではない。**神からの価値は等しい。**



## 【パウロの促し】 1コリント11:13

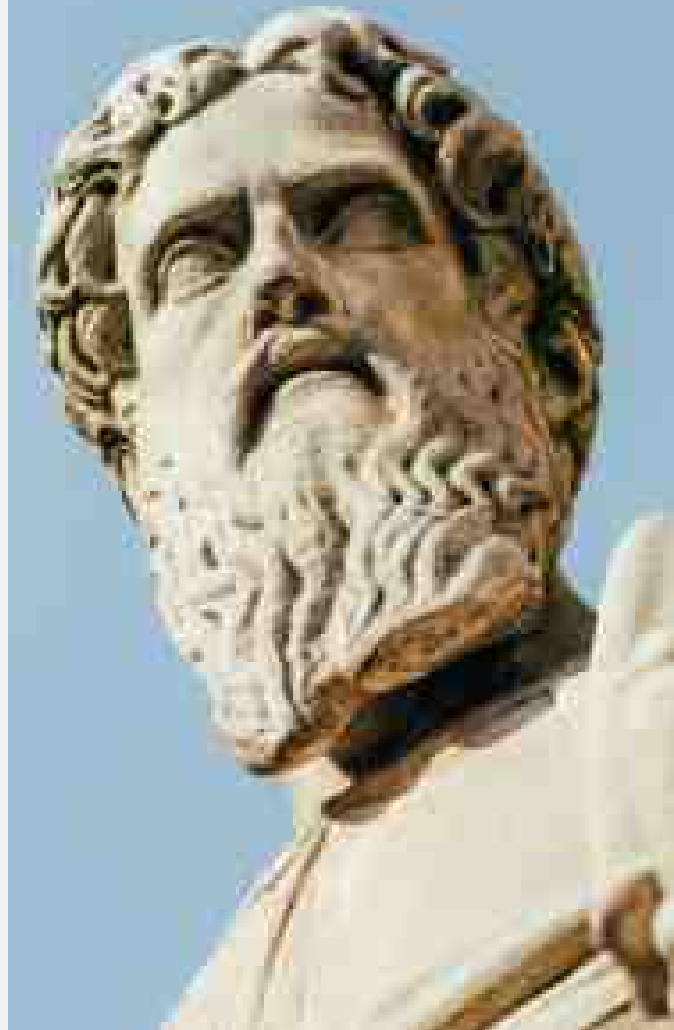
あなたがたは自分自身で判断しなさい\*。女が何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。

\*クリノー …“判断する。裁く”

「自分で判断しなさい」という用法はここだけ。

■二つの解釈がある →詳しくは後ほど!!

- ①実際にかぶりものをすべき
- ②仕える姿勢が問われている





## 【自然の秩序】 | コリント11:14~15

自然そのもの\*が、あなたがたにこう教えていないでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは彼にとって恥ずかしいことであり、

女が長い髪をしていたら、それは彼女にとっては栄誉なのです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。

\*神が**自然**を通して教えていること（一般啓示）

■ 真の神を知らない異邦人でも、**自然**にわきまえていること。 ➔ 議論の対象は異邦人信者



## 【パウロの主張】 1コリント11:16

たとえ、だれかがこのことに異議を唱えたくても、そのような習慣は私たち\*にはなく、神の諸教会にもありません。

### \*ユダヤ人

- かぶり物をしない習慣は、ユダヤ人にも、当時の地域教会にもなかった。
- パウロ個人の主張は明白。
  - ➔ 信者の女性は、かぶり物をすべき。





## Ⅱ. 聖書が教える男女の性差

## かぶり物についての二つの立場

■ ディペンセーション神学、ヘブル的視点の立場でも解釈の違いが。

① 礼拝では女性はかぶり物をするべき

② 当時の文化として理解すべき(仕えるという女性の役割に重点)

※フルクテンバウム師は①の立場。聖書フォーラムは基本②

ただし、「①とも解釈できるから難しい(中川師)」

■ パウロの立場は①で明らかだが、各々に判断の余地も残している。

「あなたがたは自分自身で判断しなさい。1コリ11:13」

➡ 異邦人信者として、パウロの問いを受け止め、考えていこう。

創造主が意味を与えた、男女の性差(ジェンダー)とは？

## 聖書の記す性差について

■ 女は男の**助け手**として造られた。神からの価値は男女とも等しい。

→ 基本的に、女性には**仕える者**としての姿勢が求められる。

ただし、生活面での具体的指摘は、ほとんどない。

■ 明確なのは、教会内の教えに関して。女が男に教えることの禁止。

「女は、よく従う心をもって静かに学びなさい。私は、**女が教えたり男を支配したりすることを許しません**。むしろ、静かにしていなさい。アダムが初めに造られ、それからエバが造られたからです。そして、アダムはだまされませんでした。女はだまされて過ちを犯したのです。 | テモ2:11~14 |

## 聖書に女性の指導者・教師はいた？

### 【旧約聖書から】

- ① **ミリアム** → モーセの姉だが権威はなし。指導権を求め裁かれた。  
この時、共に逆らった兄アロンは裁かれず。
- ② **デボラ** → 唯一の女士師。混沌の士師時代で極めて例外的。  
実際に民を指揮し、戦ったのは、バラク。
- ③ **フルダ** → 唯一の女預言者。混沌の南王国末期。極めて例外的。

### 【新約聖書から】

- ① **プリスキラ** → 常に夫アクラと活動。教える立場という記述なし。
- ② **フィベ** → 執事。奉仕者。支援者。教師ではない。

## 聖書が記す女性への従順のすすめ

「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。エペ5:22～24」

➡主に従順な妻は、夫にも従順であるべき

「慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すことができます。神のことばが悪く言われることのないようにするためです。テトス2:5」

➡妻が夫に不従順なら、神のことばが汚されてしまう

## 聖書が記す女性への従順のすすめ

「同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。夫は、あなたがたの、神を恐れる純粋な生き方を目にするのです。

あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであってはいけません。

むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。

かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。

たとえば、サラはアブラハムを主と呼んで従いました。どんなことをも恐れないで善を行うなら、あなたがたはサラの子です。 | ペテ3:1~6」

➡信仰と聖霊による豊かな内面性をもって夫に従い、神のものとされる



## 聖書が記す女性への沈黙の勧め

「神は混乱の神ではなく、平和の神なのです。聖徒たちのすべての教会で行われているように、**女の人**は教会では黙っていなさい\*。彼女たちは語ることを許されていません。律法も言っているように、従いなさい。もし何かを知りたければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、女の人にとって恥ずかしいことなのです。

Ⅰコリ14:33～35」

\*礼拝における沈黙。礼拝で聖書について語ること。質問すること。

➡賛美と祈りは含まれていない。

## 聖書が記す女性への沈黙の勧め

「女は、よく従う心をもって静かに学びなさい。私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません\*。むしろ、静かにしていなさい。アダムが初めに造られ、それからエバが造られたからです。そして、アダムはだまされませんでした。女はだまされて過ちを犯したのです。 | テモ2:11~14」

\*禁じられているのは、女が男(成人)に“聖書”を教えること。

➡聖書以外のことを教えることは含まれていない。

■エバ(女)は、アダム(男)の上に権威をふるい、失敗した。

➡この結果として、神は聖書を教える権威を男に与えた。

## 聖書が女性に促していること

「同じように、(教会指導者は、)年配の女の人には、神に仕えている者にふさわしくふるまい、人を中傷せず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。

そうすれば、彼女たちは若い**女の人**に、**夫を愛し、子どもを愛し、**慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すことができます。神の**ことばが悪く言われることのない**ようにするためです。テトス2:3~5」

■ 女は男(成人)に聖書を教えることは禁じられているが、

➔ 女性が、女性、子どもに教えることは、むしろ勧められている。

## 聖書が女性に促していること

「しかし、女はだれでも**祈り**や**預言**をするとき\*、頭にかぶり物を着けていなければ…。 | コリ11:5」

\***祈り**は許されている。使徒の時代には**預言**する女性もいた。

「しかし、**御霊の実**は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。

ガラ5:22～23」

■ **聖霊の実**を結ぶことは、すべての男女に求められていること

➔ 聖書は多くの女性の信仰者、奉仕者たちを記録している。

## 聖書が女性に(男女とも)命じていること

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。マタイ28:18~20」

「むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。 | ペテ3:15」



**Ⅲ. まとめと適用** 男女の健全な関係性を育むために

## 聖書の教える性役割・ジェンダー

- 身体的(生物学的)性差・セクシャリティについては、聖書は明白。男は男、女は女として主は造られた。➡混乱は罪の一つの結果。
- ジェンダーとは、“社会的な性の区分・性役割”
  - ➡聖書におけるジェンダーの記述は、思いのほか、少ない。社会や家庭で、女性、男性はこうあるべき ➡ほとんどない
  - 夫婦の役割分担などは、個々の関係性の中で決めればよいこと。
- 服装に関しては、異性装の禁止が(申22:5)。
  - ➡具体的な服装の定めはない。時代、文化への配慮は適用の範囲。

## クリスチャンの男が女に、女が男にできること

「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。

キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。

教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。エペ5:22～25」

① 模範にすべきは、神に従い、人々を教会を愛したキリスト

② できるのは、妻は夫に従うこと。夫は妻を愛すること、だけ。

妻は夫に「愛」を強要できない。夫は妻に「従え」とは命令できない。

➡ 主イエスの愛で、“妻を「愛する」” = “夫に「仕える」”



## 聖書を教えることの性差

「女が教えたり、男を支配したりすることを許しません(1テモテ2:12)」

➡教える、支配する。どちらも、御言葉を教える権威に関するもの

■明確な性差は、“聖書を教える”という、この一点についてのみ。

■男性に聖書を教えるのは男性に限られる。

地域教会で聖書を教えることができるのは、男性だけ。

■女性が、女性や子どもに聖書を教えることは問題なし。

➡むしろ、勧められている。(テトス2:3~5)

## 神の国でのジェンダー

「復活の時には人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのよう  
です。マタイ22:30」

➡天使は、男性形で記されるが、性別はない。

➡神の国での復活した信者の天の体には、性差はない。

ジェンダーもセクシャリティも、この世のものにすぎない。

■性差に悩むすべての人への福音が、ここにある。

この世のものにすぎない、一時的な性に囚われる必要はない。

むしろ、今だけの神の贈り物として、そのまま感謝して受け取ればいい。

## 個人的な体験を抜けて普遍的真理へ

- 世が求める男らしさを息苦しく感じていたが、聖書を知って解放された。聖書が明確に命じること以外は、適用の範囲で自分で決めればいい。この世での特別な体験として、与えられた性を楽しみ味わえばいい。
- 「真理は、あなたがたを自由にする。ヨハネ8:32」  
この御言葉は、性・ジェンダーについても変わらぬ真理。

女も男も、私たちが模範にすべきは、私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、死を打ち破って復活された、主イエス・キリスト。この方だけ。

**主イエスの従順と愛を模範として豊かな関係性を育んでいこう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。  
私の体、私の性も、主よ、あなたからの恵みです。  
キリストを模範として、従い、愛し。家族、友人、兄弟姉妹と、  
豊かな関係を育んでいくことができますように。  
主の完全な愛の内に一つとされるその時まで、福音を告げ、  
主イエスの弟子として歩み続けて行くことができますように。  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」